古代の匝瑳

匝瑳探訪

―56―

匝瑳市が誕生して5年目になります。郡名から市の名となった「匝瑳」という地名は1270年前から使われていますが、その語源や由来について、すっきりと解明されているとは言えないかもしれません。

匝瑳の海岸をオレンジ色に染める初日の出（吉崎浜）

これまで千葉県は「総の国」と呼ばれ、従来から麻を栽培して成功した肥沃な地に付いた国の名ともいわれてきました。

平成13年刊行の『千葉県の歴史古代編』には、奈良県・藤原宮（694～710年の都）の跡から後の「上総国」のことを「上球国」と書かれた記録が発見され、「球の国」の表記のほうがふさわしいと記載され、「球の国」が分割され、上球国、下球国となったのは683～685年ころという見方が示されました。

「匝瑳郡」については、1921（大正10）年に刊行された『匝瑳郡誌』の、「美麻の生ずる所、これを狭布佐郡と名づく」との記載か引用され「サフサ」「そうさ」などの呼び名が使われてきました。

物部小事が坂東に出征して、勲功をあげ、郡の分割にかかわり匝瑳郡を建てたとされ、その時代は東国諸国での郡の分割・再編の時期・649年ころのこと、との研究が報告されています。

この時同郡は十八郷からなる大郡とされ、「ソウサ」の地名も「球の国」の分割の影響があって付けられたと考えたくもなります。

市内在住の方から『古代の「匝瑳」と地名のおこり』と題する小冊子が届きました。『匝瑳郡誌』の記載内容の検討から始まり最近の資料を使って昭和50代刊行の『八日市場市史 上巻』の記述を補う内容のものといえます。

それによると「狭布佐郡」の表記は、明治の『日本地理志料』が初めで、『匝瑳郡誌』はそれを引用したとのこと。江戸時代に出版された地名の記録に「ソウサ」と振り仮名したものはなく、「迺瑳」と書かれたとあります。

平木遺跡（市内の特別支援学校所在地）からは、東北地方との海上交通を裏付ける出土物も発見され、物部匝瑳氏が国家の東北地方の征夷事業に関与した800年代前半の様子も知られつつあります。今後の調査により、「匝瑳」の語源や由来が明らかになることを新年にあたり期待することにしましょう。

問 八日市場図書館☎73・3746